

高感度コードレスレーダー探知機

SX-720

取扱説明書

目次

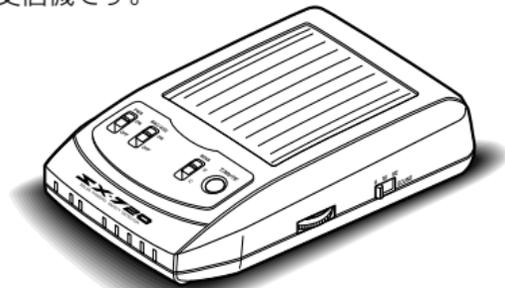
はじめに	安全上のご注意	2
	主な特長	6
	ご使用にあたって	7
	各部の名称と働き	8
取り付けかた	フロントガラスに取り付ける	10
	ダッシュボードに取り付ける	12
	電源について	14
使いかた	音量/警報音/受信感度を設定する ...	19
	MAC/ASS機能の使いかた	22
	便利な機能について	25
	S-TRAP探知機能について	26
	警報について	27
その他	受信しにくい場合	29
	取締りのミニ知識	30
	故障かな?と思ったら	32
	アフターサービスについて	34
	仕様	35

初めてご使用になるときは、付属のシガープラグを使い、バッテリーランプが点灯するまで、充電しながらご使用ください。



このたびは、スーパーキャットのレーダー探知機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。



低消費電流のロングライフ設計

2電源方式 12V/24V車対応



⚠️注意

この取扱説明書をよくお読みのうえ、安全運転のよきパートナーとして正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。

警告：警告を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う可能性があります。

注意：注意を無視した取り扱いをすると、使用者が傷害や物的損害をこうむる可能性があります。

絵表示について

-   記号は注意を促す内容であることを告げるものです。
-   記号は禁止の行為であることを告げるものです。
-   記号は行為を強制したり、指示を告げるものです。

警告

-  水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない…火災や感電、故障の原因となります。
-  穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。

警告

-  機器本体および付属品を改造しない…火災や感電、故障の原因となります。
-  運転中は絶対に操作しない…わき見運転は重大事故の原因となります。また、設定は停車中に、パーキングブレーキを確実にかけた状態で行ってください。
-  取り付けは、運転や視界の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付ける…誤った取り付けは、交通事故の原因となります。
-  万一、破損した場合は、すぐに使用を中止する…そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。
-  警報したときに慌ててブレーキをかけたりしない…走行中に急ブレーキをかけたりすると大変危険です。
-  バッテリーに直接接続しない…火災や感電、故障の原因となります。
-  サービスマン以外の人、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない…感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。
-  医用電気機器の近くでは使用しない…植込み型心臓ペースメーカーや、その他の医用電気機器に電波による影響を与える恐れがあります。

⚠警告

シガープラグ使用时

-  電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない…感電やショートによる発火の原因となります。
-  表示された電圧以外では使用しない…火災や感電、故障の原因となります。また、ソケットの極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。
-  シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよくふく…接触不良を起こして火災の原因となります。
-  煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない…発火の恐れがあります。すぐにシガープラグを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。
-  シガーライターソケットは単独で使う…タコ足配線や分岐して接続すると、異常加熱や発火の原因となります。
-  助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしない…万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、シガープラグ使用时に配線が妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。
-  シガープラグは確実に差し込む…接触不良を起こして火災の原因となります。
-  ぬれた手でシガープラグの抜き差しをしない…火災や感電、故障の原因となります。

⚠注意

シガープラグ使用时

-  取り付けは確実に行う…落ちたりして、ケガの原因となります。
-  シガープラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない…コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。必ずシガープラグを持って抜いてください。
-  車から離れるときは、電源を切る…本機はオートパワースイッチ機能を搭載していますが、使用しないときは電源スイッチで電源を切ってください。特にシガープラグを接続している場合は、シガーライターソケットに常時電源が供給される車種があります。また、長期間ご使用にならないときはシガープラグを抜いてください。
-  お手入れの際は、シガープラグを抜く…感電の原因となります。

日頃から安全運転をお心がけください

このレーダー探知機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。レーダー方式以外の赤外線や光電管式、ワイヤー式などのスピード測定装置には反応しません。また、電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輛通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。「いつも鳴るから」と安心せずに注意してください。

※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

主な特長

- 1 ソーラーバッテリーを搭載した高感度コードレスタイプ。
- 2 小型でエネルギー密度が高く、しかも地球環境にやさしい高容量のニッケル水素電池を採用。
- 3 ステルス型に加え、新Hシステムにも対応するS-TRAP探知機能。
- 4 振動の違いで走行中／停車中を識別し、停車中の警報を制御するとともに、走行時間の経過に応じて最適な受信感度を自動的に選択するMAC^{*1}/ASS機能^{*2}。
- 5 より遠くの取締りを探知するウルトラ感度。
- 6 高い性能を実現するDROを採用したダブルスーパーヘテロダイン方式の受信回路。
- 7 高い選択度を実現するマイクロコンピューターによる受信信号識別回路。
- 8 Kバンド導入の動きに備えたX・Kツインバンド。
- 9 高音質の警報音(電子音、メロディ)と高輝度シグナルメーターで知らせるデュアル警報方式。
- 10 メロディはディズニー曲^{*3}を採用。
- 11 それぞれの警報^{*4}が取締りレーダー波への接近に応じて変化する段階的警報システム。

- 12 不要となった警報音をカットできるミュート機能。
- 13 知覚後の警報を自動的に抑えるフルオートクワイアット機能。
- 14 後方からの取締りに対応するリフレクションプレート付きブラケット。
- 15 消費電流を抑える低消費電流化回路によるロングライフ設計^{*5}。(特許第02075785)
- 16 バッテリーのムダな消耗を防ぐオートパワースイッチ機能。
- 17 バッテリーの充電状態を知らせるバッテリー表示機能。
- 18 カー電源(12V/24V車)に接続して充電・使用ができる2電源方式。
- 19 カーナビゲーションの影響を抑えたGPS対策。

- ※1 Motion-sensor Alarm Control(モーションセンサーアラーム コントロール)の略です。
※2 Auto Sensitivity Selection(オート センシティビティ セレクション)の略です。
※3 メロディ曲:ミッキーマウスマーチ/ハイホー。
※4 メロディを除く。
※5 フル充電後、まったく充電されない状態で約70時間(無警報時)の連続使用ができます。(無警報、GPSスイッチON時でGPS波を排除している状態では約30時間)

ご使用にあたって

まず最初に充電します

初めてご使用になるときは、付属のシガープラグを使い、バッテリーランプが点灯するまでの期間、充電しながらご使用ください。

使用上のご注意

- 本機は、赤外線や光電管、ループコイル式スピード測定装置には反応しません。
- 一部の車種に採用されている断熱ガラスは、電波の透過率が低いため、探知距離が短くなることがあります。

動作温度範囲について

- 本機は、-10℃～+85℃まで正常な動作が保証されています。夏、冬とも安心してご使用ください。(充電可能温度範囲は、-5℃～+85℃です。厳寒地でご使用になる場合は、付属のシガープラグでご使用ください)

本機は専用のニッケル水素電池を内蔵しています。内蔵の電池は本機専用で、他の機器に使用することはできません。また安全のため専用電池以外は本機に使用できません。電池を交換する場合は、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

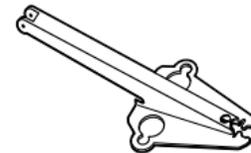
付属品

■ご使用前に付属品をお確かめください。

- シガープラグ(1)
- 吸着盤(大2、小1)
- マジックテープ(1)
- クッションカバー(1)
- 取扱説明書(1)
- 保証書(1)
- ご相談窓口一覧(1)



- フロントガラス用ベース(1)
- ※工場出荷時に、ブラケットとフロントガラス用ベースがセットされています。



- ブラケット(1)



- ダッシュボード用ベース(1)



別売品のお知らせ

電源直結コードOP-4
1,500円(税別)
シガーライターソケットを使わずに、アクセサリ系端子から直接電源をとることができます。

本機を取り付けてのスピード違反に関しては、弊社では一切の責任を負いかねます。日頃からの安全運転をお心掛けください。

各部の名称と働き

本体

MAC / ASSスイッチ [MAC / ASS]

MACシステムの設定/解除ができます。設定すると、自動的にASS機能が働きます。(22ページ)

DCジャック

付属のシガープラグを接続します。(16ページ)

GPSスイッチ[GPS]

カーナビゲーションの影響を受けるときONIにします。(28ページ)

MACレベルスイッチ [MAC LEVEL]

MACシステムの振動の検出感度の調整ができます。(23ページ)

電源スイッチ [PWR]

ONIにすると電源が入ります。(19ページ)

パイロットランプ[PWR/MAC]

電源が入ると点滅します。また、警報の状態をランプの色で表示します。(24ページ)

バッテリーランプ []

シガープラグでの充電が完了すると点灯し、バッテリーが消耗してくると点滅します。(15ページ)

アンテナ (前面)

取締りレーダー波を受信します。

受信感度セレクトスイッチ[SENS]

MAC/ASS機能を解除しているときは、走行環境や条件に合わせて受信感度が選べます。(20ページ)

テスト&ミュートボタン[T/MUTE]

警報機能の確認やミュート機能を使うときに押します。(19ページ)

警報音セレクトスイッチ[SOUND A/M₁/M₂]

取締りレーダー波受信時の警報音が選べます。(20ページ)

ボリュームつまみ[VOL]

警報音の音量調節ができます。(19ページ)

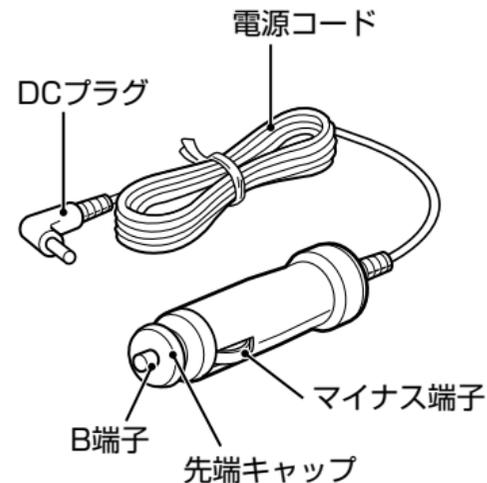
シグナルメーター [1~5]

受信している取締りレーダー波の強さに応じて、点灯数が左から右へふえていき、右端に達すると、すべてが点滅します。(27ページ)

ASSランプ [ASS]

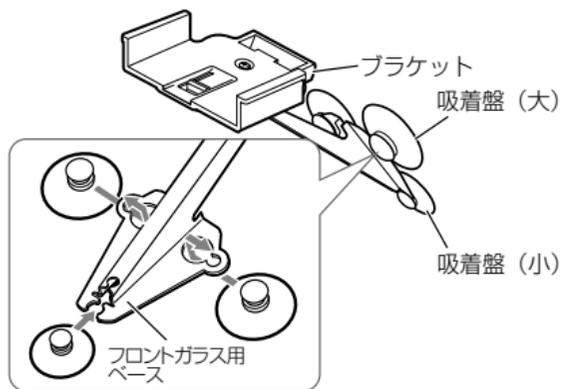
ASS機能による受信感度の状態をランプの色で表示します。
※MAC/ASS機能を解除しているときは、消灯します。(24ページ)

シガープラグ



フロントガラスに取り付ける

1 フロントガラス用ベースに、吸着盤を取り付ける

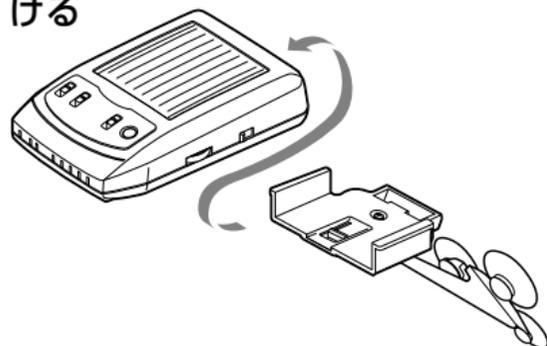


警告

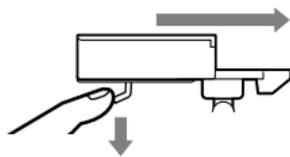


運転や視界の妨げにならない場所、また自動車の機能(ブレーキ、ハンドルなど)の妨げにならない場所に取り付けてください。誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

2 付属のブラケットを本体に取り付ける



本体を取り外すときは、ブラケットの下のツメを軽く押し下げてください。



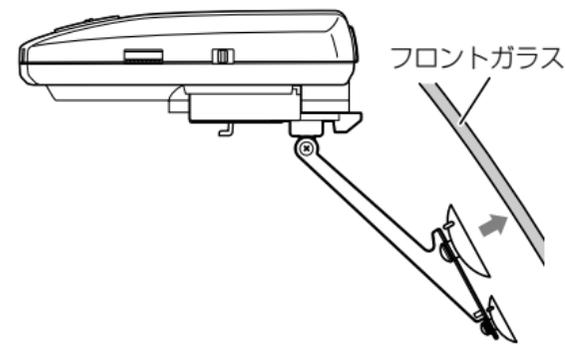
注意



取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。

3 フロントガラス下部に貼り付ける

吸着盤(吸着面)に水などをつけて、フロントガラスの中央下部の日光の良く当たる場所に貼り付けます。

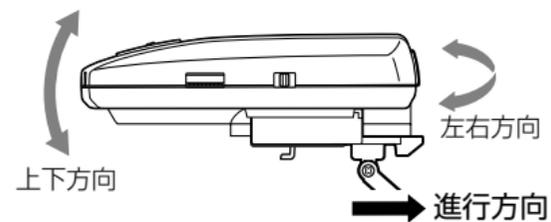


※湾曲のきつい部分へは取り付けないでください。取り付けが安定しないばかりではなく、振動を検出しにくくなり走行中でも電源が切れることがあります。(オートパワースイッチ機能14ページ参照)

※取付が安定しない場合は、ダッシュボードに取り付けてください。アンテナの前に他の機器のアンテナや金属、ゴムなどの障害物がこないように取り付けます。

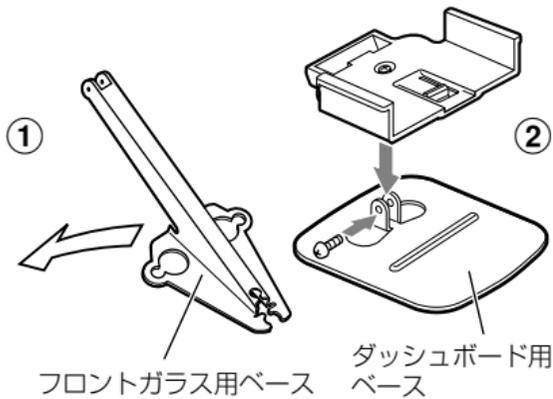
4 道路に対して、本体を水平にする

アンテナが進行方向(前方)を向くように、角度を調節します。



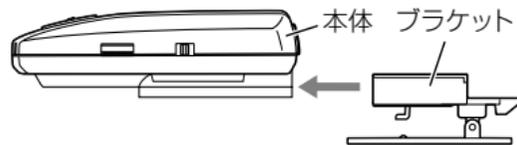
ダッシュボードに取り付ける

- 1** 付属のブラケットから①フロントガラス用ベースを外し、②ダッシュボード用ベースに取り付ける

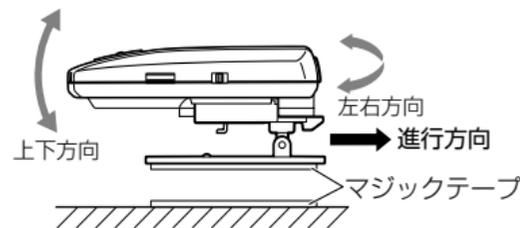


※ネジの大きさに合ったドライバーを使用してください。ネジのつぶれの原因となります。

- 2** ブラケットを本体に取り付ける



- 3** 付属のマジックテープで貼り付け、本体を道路に対して水平に、またアンテナが進行方向(前方)を向くように、角度を調整する



- アンテナの前に他の機器のアンテナや、金属、ゴムなどの障害物がこないような場所に取り付けてください。
- あらかじめ、貼る場所のチリや汚れ、脂分をよく落とし、慎重に行ってください。貼り直しは、テープの接着力を弱めます。
- 使用中、本体が傾くような場合は、ネジの締め付けを行ってください。

警告



エアバックの上に取り付けしないでください。万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。

■ソーラーバッテリーの充電と使用方法

本機はシガーライターソケットからの充電・使用に加え、ソーラープレートによる太陽光からの充電ができます。

初めてご使用になるときは、付属のシガープラグを使い、バッテリーランプが点灯するまでの期間、充電しながらご使用ください。(走行中、駐車中にも太陽光から充電されますが、気象条件、使用環境に左右されないより確実な初期充電を行うことができます)

シガープラグで充電する場合、バッテリーアラームが鳴った状態からは、約24時間(例 1日4時間で6日間)でフル充電できます。

※シガープラグでの充電が完了すると、バッテリーランプが点灯します。

※シガープラグを接続したあと、電源スイッチをONにすると、バッテリーランプが一瞬点灯することがありますが、これはフル充電ではありません。

電源スイッチのON/OFFに関係なく充電できます。

※電源OFFの場合や、太陽光から充電しているときは充電が完了しても、バッテリーランプは点灯しません。

1度充電したあとは、バッテリーランプが点滅を始めるまで、シガープラグを抜いて、そのままお使いください。

※初期充電を充分に行えば、使用中のバッテリーの消費分は、走行中や駐車中に太陽光からの充電で補充されます。

フル充電したあとは、まったく充電されない状態でも約70時間*(無警報時)の連続使用ができます。(無警報、GPSスイッチON時でGPS波を排除している状態では約30時間)

※連続使用時間は、各種機能の設定状態により異なります。

冬期は、日照時間やソーラーバッテリーの性能上、充電しにくくなる場合があります。バッテリーアラーム機能がひんぱんに働くときは、シガープラグでの使用をお勧めします。

■オートパワースイッチ機能について

アイドリングなどの振動の少ない状態(停車中)や、エンジンを切ったときなど振動のない状態(駐車中)が約3分間以上続くと、自動的に電源が切れます。(振動を検出すると電源が入ります)

※ 振動や騒音の激しい場所では、わずかな揺れを検出して電源が切れないことがあります。使用しないときは電源スイッチで電源を切ってください。

※ 走行中でも、停車や低速運転などで、振動を検出できない状態が約3分間続いた場合にはオートパワースイッチ機能が働きます。

バッテリー表示機能について

バッテリーが消耗してくると、バッテリーランプが点滅し、ローバッテリーアラーム(🔊)ビビッ…ビビッ…)が鳴り出します。このようなときは充電が必要です。付属のシガープラグを使い、充電してください。

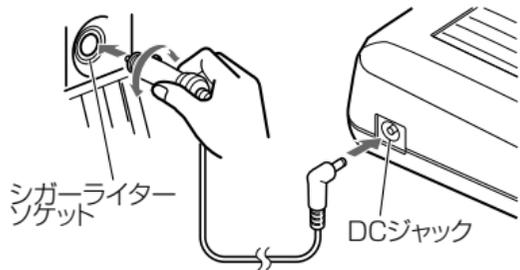
バッテリーの状態	バッテリーランプ
シガープラグによる充電が完了した状態(フル充電)	点灯 
シガープラグによる充電中またはバッテリーが良好な状態	消灯 
バッテリーが消耗し、充電が必要な状態	点滅 
バッテリーが消耗し、 <u>すぐ</u> に充電が必要な状態 ※ 探知機能は動作しなくなります。	点滅  

•フル充電時のバッテリーランプの動作温度範囲は、+5°C~+40°Cです。真夏や真冬の駐車中では、車内の温度が極端に高くなったり、低くなったりします。そのため駐車直後には、バッテリーの電圧・充電効率が変化し、バッテリーランプがフル充電前に点灯したり、フル充電の状態でも点灯しないことがあります。故障ではありません。

シガーライターソケットからの充電と使用方法

付属のシガープラグを、DCジャックと車のシガーライターソケットに差し込む

シガープラグは、2、3回左右にひねりながら差し込みます。



警告

助手席エアバックの妨げとなる場所に配線しないでください。電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しなかったり、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。

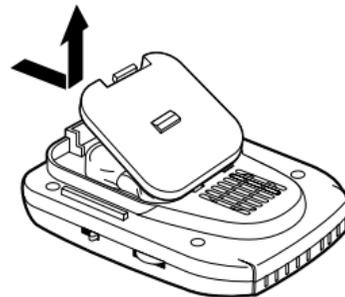
- シガープラグで充電する場合、バッテリーアラームが鳴った状態からは、約24時間でフル充電できます。
- シガープラグは、必ず付属のものをご使用ください。
- シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、新しいヒューズ(1A)と交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、使用を中止し、シガープラグを抜いてお買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。
- シガープラグ内部には、ヒューズとスプリングが入っています。ヒューズ交換の際は、部品の紛失に注意し、順序を合わせて入れてください。
- 一部の車種においては、シガープラグの形状が合わないことがあります。その場合は、別売のOP-4を使用してください。(7ページ)
- 本機をバッテリーなどと直接接続すると破損します。絶対におやめください。
- シガープラグで充電・使用するときは、MAC/ASS機能は正常に動作しないことがあります。その場合はMAC/ASS機能を解除してご利用ください。

電池交換の方法

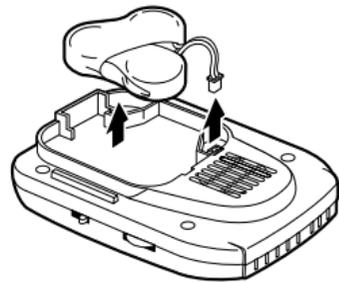
内部のバッテリーには寿命があります。充電が十分できなくなったら、新しいものと交換してください。(使用状況にもよりますが、約3~5年を目安にしてください。)

- 本機は専用のニッケル水素電池を使用しています。安全のため専用電池以外は使用できません。新しいバッテリーについては、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所、サービス部にご相談ください。なお、バッテリーの寿命にかかわらず、シガープラグを接続しての使用はできません。

1 バッテリーカバーを開ける。

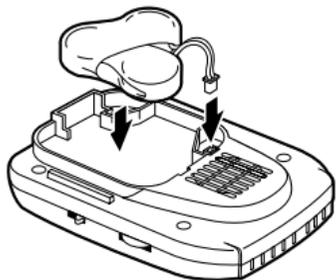


2 バッテリーを取り出し、コードのプラグを外す。

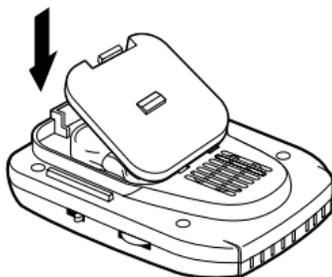


電池交換の方法

- 3** 新しいバッテリーのプラグを差し込み、バッテリーを収納する。

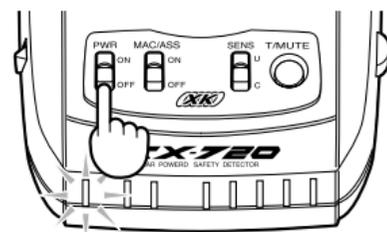


- 4** コードを挟まないように注意してバッテリーカバーを閉める。



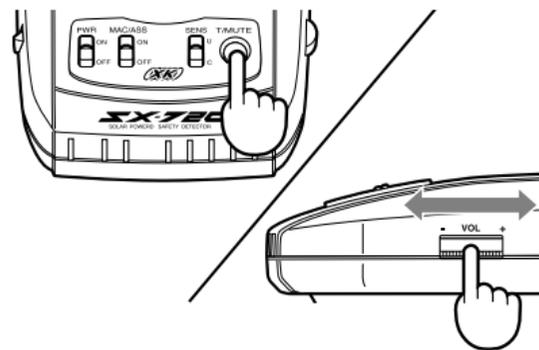
※設定は、必ず停車中にパーキングブレーキを確実にかけて行ってください。

- 1** 電源を入れる
電源スイッチをONにします。



ターン・オン・ビープ(唸)ピロっピロっ…25ページ参照)が数秒間鳴り、パイロットランプが点滅します。

- 2** 音量を調節する
テスト&ミュートボタンを押しながら、音量ツマミを回します。



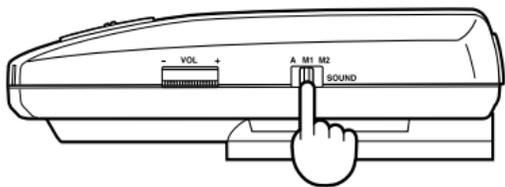
押している間はテストモードとなり、警報音が鳴り続けます。

テスト&ミュートボタンを押す前から警報機能が働く場合は、近くで発信されている取締りレーダー波と同じ電波を受信しているためです。この状態でボタンを押すと、ミュート機能が働き、警報音が止まります。(25ページ参照)

音量/警報音/受信感度を設定する

3 警報音を選ぶ

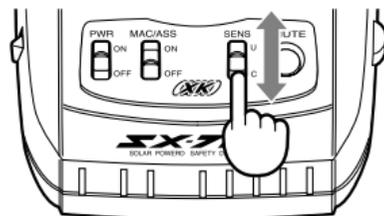
警報音セレクトスイッチで切り換えます。



- A M1 M2
SOUND : 電子音アラーム
- A M1 M2
SOUND : メロディアラーム(ミッキーマウスマーチ)
- A M1 M2
SOUND : メロディアラーム(ハイホー)

4 受信感度を選ぶ

受信感度セレクトスイッチで切り換えます。
(マニュアルモード)



ウルトラ感度モードとカットダウンモードの切り換えができます。

受信感度について

受信感度が高いほど、遠くの電波を受信できますが、取締りレーダー波と同じほかの電波も受信してしまいます。走行環境や条件に合わせて、受信感度をお選びください。また、受信感度が高いほど、新Hシステムなどの受信には有効となります。

■マニュアルモード時の受信感度の切り換え

受信感度		走行環境や条件
低い ↓	カットダウンモード 	市街地
高い	ウルトラ感度モード 	郊外や高速道路

MAC/ASS機能に設定すると、受信感度セレクトスイッチの位置にかかわらずASS機能が働き、走行時間の経過により受信感度がカットダウンからスーパー感度、ウルトラ感度へと変化します。(24ページ参照)

MAC/ASS機能は、内蔵のモーションセンサーが走行中のロードノイズなどの連続的な振動を検出して、走行中か停止中かを判断し、警報を制御します。

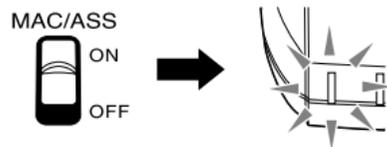
アイドリングなどの振動の少ない状態(停車中)や、エンジンを切ったときなど振動のない状態(駐車中)が約3分間以上続くと、オートパワースイッチ機能が働き、電源が自動的に切れます。また、ドアを開閉したり、発車したり、エンジンをかけたり、アクセルを踏んだりすると、自動的に電源が入ります。低速走行/停車中の警報を抑え、駐車中に電源を切り忘れたときなどのバッテリーの消耗を抑えます。

1 アイドリング中に電源をONにする

パイロットランプがオレンジ色に点滅します。

2 MAC/ASSスイッチをONにする

数秒後にパイロットランプが赤色の点滅になります。



3 動作を確認する

走行しはじめて速度が上がると、数秒後にパイロットランプが緑色の点滅になり、停車すると、数秒後に赤色の点滅になります。

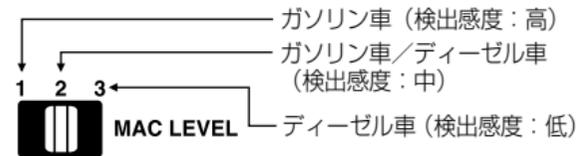
4 調整する

手順3で正しく動作しない場合は、MACレベルスイッチを切り換えてください。

MACレベルスイッチについて

MACシステムは、走行中のロードノイズなどの連続的な振動と、停車中のアイドリングなどによる振動の種類や大きさの差を検出し、動作します。ご使用になる車種や走行状況に合わせてMACレベルスイッチを切り換え、振動の検出感度を調整してください。

■MACレベルスイッチの設定目安



目安として、速度が約30km/hになるまでに、パイロットランプが緑色の点滅になる位置にしてください。

※MACの動きによりパイロットランプが赤色に点滅中は警報しません。(取締りレーダー波を受信しません)

• MACレベルスイッチを切り換えても、振動を検出しにくい場合は取り付けかたを変えてください。フロントガラスに取り付けている場合にくらべダッシュボードに取り付けた方が振動を検出しやすくなります。

※またMACレベルスイッチが正しい位置に設定されず振動を検出しにくい場合、オートパワースイッチの動きにより走行中に電源が切れることがあります。

• 振動が極端に大きな車種や、走行中と停車中の振動に違いの少ない車種では正常に働かないことがあります。そのような車種では、MAC/ASS機能を解除してご使用ください。

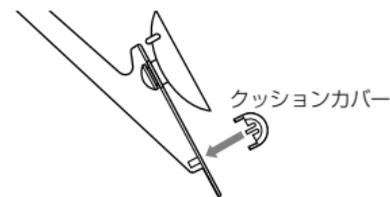
※MAC/ASS機能を使用しない場合はMACレベルスイッチは1に設定してください。

• エアコンを使っているときや、カーオーディオなどの音量が高いとき、ワイパーを使用しているとき、エンジンをかけた直後(エンジンが安定するまで)などは、MAC/ASS機能が正常に働かないことがあります。

• オートパワースイッチ機能は、MAC/ASS機能の設定/解除にかかわらず動作します。

• フロントガラスへ取り付けをご使用の場合、MACレベルスイッチを切り換えても正常に働かない(停車中でも、パイロットランプが赤色の点滅にならない)ときは、フロントガラス用ベースの吸着盤(小)を取り外し、付属のクッションカバーを取り付けてみてください。

• フロントガラスに比べ、ダッシュボードは振動の差を検出しやすくなります。フロントガラスに取り付けて正常に動作しない場合は、ダッシュボードに取り付けてみてください。



パイロットランプの点滅色と警報動作

MAC/ASS機能に設定すると、ASS機能が働いて低速走行/停車中の不要な警報を抑え、走行時間の経過に応じて受信感度が変化します。

		車の状態					
		停車	走行中 (MACレベルスイッチの調整により、一定の振動を超えたとき)	停車			
機能設定時	MAC/ASS パイロットランプ	赤色点滅	数秒 → 緑色点滅	数秒 → 赤色点滅			
	ASSランプ	赤色点滅	約20秒 → オレンジ色点滅 → 約120秒 → 緑色点滅	それ以降 → 赤色点滅			
	警報状態 受信感度	警報しない	カットダウンモード → 警報する (スーパー感度モード)	警報しない	ウルトラ感度モード		
機能解除時	MAC/ASS パイロットランプ	オレンジ色点滅					
	ASSランプ	消灯					
	警報状態 受信感度	警報する				マニュアルモードで設定した受信感度	

警報中は音による振動を感知し、低速走行や、停車しても警報が続くことがあります。このとき、警報をカットする場合は、テスト&ミュートボタンを押してください。(25ページ参照)

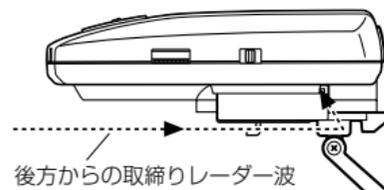
便利な機能について

フルオートクワイアット機能

警報が約20秒間以上続くと、自動的に音量が小さくなり、シグナルメーターなどのランプ類も暗くなります。※カットダウンモードでは、受信後の警報音を抑え、強い電波を受信してから警報音を出しますので、はじめから小さな音で警報したり、すぐに警報音が小さくなる場合があります。

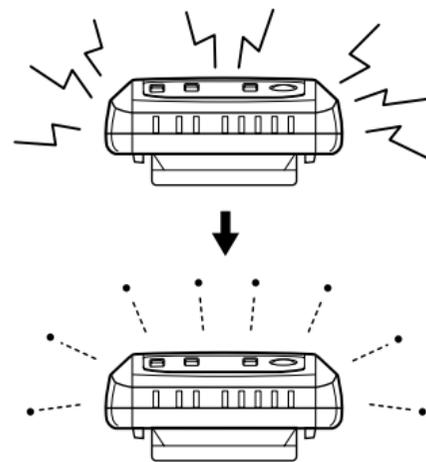
新方式ブラケット

●後方からの取締りに対応
リフレクションプレートにより、後方からの取締りレーダー波をより確実に受信することができます。



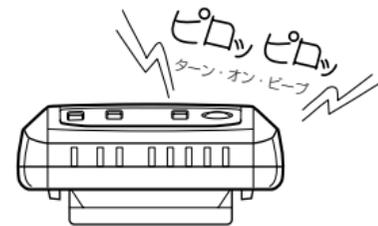
ミュート機能

●取締りレーダー波の発信源の確認ができたなら
警報中にテスト&ミュートボタンを押すと、受信中の電波がなくなるまで、警報音を一時的に消すことができます。



ターン・オン・ビーブ

電源が入ったとき、ニアミスアラーム(19ページ参照)が鳴り、電源が入ったことをお知らせします。



- バッテリーが消耗している場合は、ターン・オン・ビーブのあとローバッテリーアラームが鳴ります。(バッテリーが著しく消耗している場合を除く)
- ターン・オン・ビーブは、オートパワースイッチの働きにより、電源が入ったときにも鳴ります。

S-TRAP(スーパー トラップ)探知機能について

ステルス型取締り機と新Hシステムへの対応

ステルス型取締り機の「一瞬で強い電波」や、新Hシステムの「種類の異なる電波」など、従来機では対応の難しかった取締りレーダー波を識別して、専用のニアミスアラーム(㊦)ピロップピロップピロップ…)を鳴らして警報するS-TRAP探知機能を内蔵しています。ニアミスアラームが鳴った場合は、特に注意してください。

※S-TRAP探知機能を解除することはできません。

新Hシステムについて

電波を用いる自動速度取締り機(オービス)の一種ですが、他のオービスとは種類の異なる電波を使用しているため、従来機では探知(受信)しにくくなります。ただし、このシステムでは証拠の記録をする前に、電光掲示板で「速度オーバー」や「速度超過」などの警告がありますので、これらの警告を見かけたら注意してください。



- S-TRAP探知機能はステルス型の取締り機に対し、完全対応というわけではありません。また、取締りには電波を使用しない光電管式などもあり、先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。

ステルス型取締り機について

他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知(受信)されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短時間強い電波を発射して速度の測定ができる狙い撃ちの取締り機です。従来機では、先頭を走行せずに2番手以降で走行していても、一瞬しか警報されません。

警報について

つづく

取締り機(電波の種類)	シグナルメーター	警報音
通常の取締り機 (常時発射されている連続波)	左から右に点灯数が増えます。 1 [] 2 [] 3 [] 4 [] 5 []	選択した警報音(メロディ、電子音)が鳴ります。電子音は断続音から連続音に変化します。
ステルス型取締り機 (必要なときのみ、短時間発射される狙い撃ち的な連続波)	いきなり4つ以上点灯します。 1 [] 2 [] 3 [] 4 [] 5 []	ニアミスアラーム(ピロップピロップピロップ…)が鳴ります。
新Hシステム<新型オービス> (常時発射されている、種類の異なる電波)	段階的に点灯数が増え、3つ以上で新Hシステムを識別します。 1 [] 2 [] 3 [] 4 [] 5 []	選択した警報音で鳴りはじめ、新Hシステムを識別するとニアミスアラームが鳴ります。

段階的警報システム

各警報は、取締りレーダー波発信源への接近に合わせて変化します。

デュアル警報方式

警報音(電子音、メロディ)とシグナルメーターで、耳と目に伝えます。

- メロディは変化しません。
- 警報が約20秒間続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。
- シグナルメーターの点灯が右端に達すると、すべてが点滅します。
- メロディアラームを選んでいても、ステルス型取締り機や新Hシステムの電波を受信するとニアミスアラームが鳴ります。
- ニアミスアラームは、ミュート機能により一時的に消すこともできます。
- 通常の電波を受信した場合でも、周囲の状況などにより、ニアミスアラームが鳴ることがあります。

警告

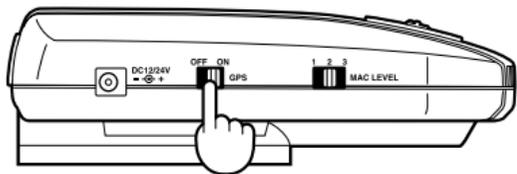


警報音が鳴ったときに、あわててブレーキをかけないでください。急ブレーキは重大事故の原因となります。

GPS対策

一部のカーナビゲーションで、カーナビゲーションシステムの電源を入れると警報機能が働くことがあります。このような場合は、GPSスイッチをONにしてご使用ください。

カーナビゲーションの影響を自動的に判断し警報しないようにします。



※本機の電源が入ってから、約15秒経ってもカーナビゲーションの影響が収まらない場合は、再度本機の電源を入れ直してください。

※カーナビゲーションからの影響を排除している場合は、受信している電波の識別判定がしにくく、新Hシステムやステルス波に対しても通常の警報音となる場合があります。

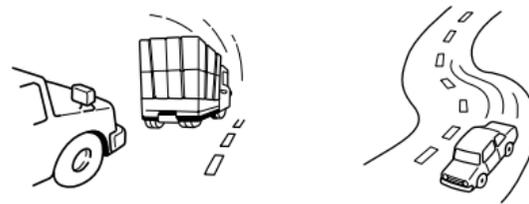
※自動ドア等の常に電波の出ている場所でエンジンを始動した場合、GPSを排除できない場合があります。その場合は、電波の出ている場所へ移動して、再度本機の電源スイッチを入れ直してください。

受信しにくい場合

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、取締りレーダー波を受信しにくいことがあります。

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、電波を受信しにくいことがあります。

- 前に走行している車(とくに大型車)がある場合や、コーナー、坂道では、電波が遮断され、探知距離が短くなることがあります。スピードの出やすい下り坂では、とくにご注意ください。
- 対象の車が近くに来るまで、電波を発射しない狙い撃ち的な取締りができるステルス型のスピード測定装置があります。



〔前に走行中の車がある場合〕

〔コーナー〕



〔下り坂〕

電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輛通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。『いつも鳴るから』と安心せずに注意してください。

取締りのミニ知識

本機と、取締りの方法や種類をよくつかんで、上手にご使用ください。制限速度を守り、安全運転を心がけることが大切です。

スピード違反の取締り方法

大きく分けて3つの方法があります。

1. 追走して測定する方法

(追尾方式)

指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

2. 距離と時間で算出する方法

(光電管式、ループコイル式)

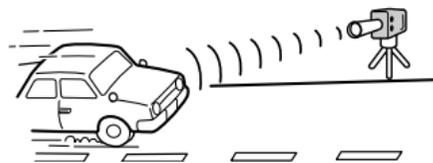
一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。

測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や埋め込みの磁気スイッチなどが使われています。

3. 電波を使って算出する方法

(レーダー方式)

電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化(ドップラー効果)で速度を算出します。



現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流となると思われます。

取締りレーダー波について

取締りレーダー波は、発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

定置式

人が測定装置を道路際に設置して行います。

取締りレーダー波は、直進性が強いいため、発射角度が浅いほど、探知しやすくなります。

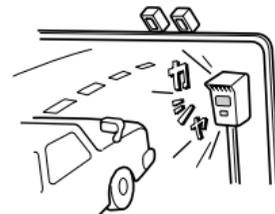


移動式

測定装置をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。

自動速度取締り機(オービスIII)

速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。



Kバンドについて

Kバンドは、米国ですでに使用されている取締りレーダー波の周波数で、日本国内でも使用される可能性があります。本機は、現在国内で使用されているXバンドに加え、Kバンドも受信できるX・Kツインバンド対応です。

本機はレーダー方式のスピード測定装置に対応します。

※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

故障かな?と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にご相談ください。

症状	チェック項目
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチがONになっていますか。 バッテリーが消耗していませんか。シガープラグを使って充電してください。 オートパワースイッチ機能が働いていませんか。停車や駐車の状態が約3分以上続くと、自動的に電源が切れます。
充電できない	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光を充分に当てても充電できないときは、シガープラグを使って充電できるか確認してください。 シガープラグで充電できないときは、シガープラグ内部のヒューズが切れていないか確認してください。切れている場合は、新しいヒューズと交換してください。
MACシステムやASS機能、オートパワースイッチ機能が正常に働かない	<ul style="list-style-type: none"> ご使用になる車種に合わせてMACレベルスイッチで振動の検出感度を調整してください。振動が極端に大きな車種や、走行中と停車中の振動に違いの少ない車種では正常に働かないことがあります。そのような車種では、MAC/ASS機能を解除してご使用ください。また、振動や騒音の激しい場所に駐車するときは、電源を切ってください。 警報中は音による振動を感知し、低速走行や停車しても警報が続くことがあります。このとき、警報をカットする場合は、テスト&ミュートボタンを押してください。
反応(警報)しない	<ul style="list-style-type: none"> 電源が入っていましたか。パイロットランプの点滅を確認してください。 警報機能が正しく働きますか。テスト&ミュートボタンを押して確認してください。 パイロットランプが赤色で点滅していませんか。MACレベルスイッチが正しく設定されていますか。パイロットランプが赤色で点滅しているときは警報しません。MACレベルスイッチを正しい位置に設定しなおしてください。MACレベルスイッチを切り換えても振動を検出しにくい場合は、取り付けかたを変えてください。 オートパワースイッチ機能が働いていませんか。停車や駐車の状態が約3分以上続くと、自動的に電源が切れます。走行中でもオートパワースイッチ機能が働く場合は、MACレベルスイッチを設定しなおしてください。MACレベルスイッチを切り換えても振動を検出しにくい場合は取り付けかたを変えてください。

※正常に受信するかどうかの確認は、電波式の自動ドアなどで行うことができます。

症状	チェック項目
反応(警報)しない	<ul style="list-style-type: none"> 取締りレーダー波が発射されていいたか。取締り準備中あるいは終了後などで、スピード測定装置から取締りレーダー波が発射されていないことがあります。(とくにオービスIIIではよくあります) 取締りが「レーダー方式」で行われていましたか。
取締りもしていないのに警報機能が働く	<ul style="list-style-type: none"> ローバッテリーアラームではありませんか。バッテリーランプが点滅しているときは、シガープラグを使って充電してください。 取締りレーダー波と同じ電波が他にも使用されています。それらの電波を受信すると警報機能が働くことがあります。故障ではありませんので、ご了承ください。 <p>——取締りレーダー波と同じ電波を使用している主な機器——</p> <ul style="list-style-type: none"> 電波式の自動ドア、防犯センサー 信号機の近くに設置されている車輛通過計測機 NTTのマイクロウェーブ通信回路の一部 気象用レーダー、航空レーダーの一部 他のレーダー探知機の一部 まれに他の無線機の影響を受けることがあります。その場合は取り付け位置を変えてみてください。
警報の途中で警報音が小さくなりランプ類も暗くなる	<ul style="list-style-type: none"> 警報が約20秒間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるために、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。
カーナビゲーションの影響を排除できない	<ul style="list-style-type: none"> GPSスイッチがONになっていますか。 自動ドアなど、常に電波の出ている場所でエンジンを始動しませんでしたか。電波の出ている場所で、再度本機の電源スイッチを入れ直してください。

アフターサービスについて

1. 保証書(別に添付してあります)

保証書は、必ず「販売店・お買い上げ年月日」をご確認のうえ、保証内容をよくお読みになって、大切に保管してください。

2. 保証期間

お買い上げの日から1年間

3. 対象部分

機器本体(消耗部品を除く)

4. 修理をご依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」で確認しても、なお異常があると思われるときは、使用車名(車種)、機種名(品番)、氏名、住所、電話番号、購入年月日、保証書の有無と故障状況をご連絡ください。

●保証期間中のとき

保証書裏面の「故障内容記入欄」にご記入いただき、お買い上げの販売店まで保証書とともに、機器本体をご持参ください。保証書の内容にしたがって修理いたします。

●保証期間が過ぎているとき

まず、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。

5. アフターサービス等についてご不明の点は

お買い上げ販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にお問い合わせください。

仕様

電源電圧	: 3.6V(ニッケル水素電池1.2V×3) DC12V/24V(シガープラグ入力電圧)
消費電流	: 待機時:4mA以下 最大 :110mA以下
受信方式	: スイープオシレーター式ダブルスーパー ヘテロダイン方式
受信周波数	: Xバンド、Kバンド
動作温度範囲	: -10℃~+85℃ (充電可能温度範囲:-5℃~+85℃)
本体外形寸法	: 72.5(W)×22.5(H)×102.5(D)mm (突起部含まず)
本体重量	: 162g

※本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。